
人気商品「わかって君」を手に入れた男の思考

藻ノかたり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人気商品「わかって君」を手に入れた男の思考

【Nコード】

N7069N

【作者名】

藻ノ かたり

【あらすじ】

超人気商品「わかって君」 思いがけず手に入れる事になったツヨシだったが……。

「いやー、オレって運がいいなあ。っていうか持つべきものは先輩
って事ですよね。本当なら3年待ちの商品を手に入れることが出来
るなんて」

科学デパート横浜支店オープン前日。このデパートの一室に呼び出
された大学生のツヨシは、幸運にも「思考ダイレクト表現機・わか
つて君」を手に入れた。

たまたま、彼の大学のOBアカギが科学デパートの売り場統括責任
者を任されていて、そのコネで超人気商品「わかつて君」を手に入
れることが出来たのだ。

この頭にかぶる商品、空前の大ヒットとなっている。効能はという
と、メーカーの宣伝によれば次のようなものだ。

”現代に生きる人々の多くは、言いたい事も言えず、じつと我慢を
している事が大変多いものです。今まではそれが忍耐の美德とされ
てきましたが、グローバル化が進む現代、それではいけません。

この商品、わかつて君は、頭にかぶるだけでアナタが言いたくても
言えない事をアナタに喋らせてくれます。脳を刺激し、無意味な我
慢をしないよう、脳に命令するのです。

さあ、言いたいことも言えず悩んでいるアナタ。わかつて君で新し
いコミュニケーションの世界へ飛び出しましょう”

一見、言いたい放題言ってトラブルになりそうな機械だが、自動調

整装置が付いていて、円滑なコミュニケーションを越えるような内容は喋らないように制御できるのだ。

この機械、まず海外で人気に火がついた。日本人は内向的で何を考えているのかわからないという、外国人の偏見を見事に吹き飛ばしたのだ。それ以来、日本国内でも飛ぶように売れ出し、多くの企業がコミュニケーション支援ツールとして活用している。

ツヨシもどちらかと言えば内向的な性格だったので、就職活動している現在、この機械を手に入れたかったのだが、特別のコネでもない限り手に入らないほどの人気ぶりに、半ば諦めかけていたところだった。

「さあ、早速かぶってみるよ」

先輩のアカギがすすめる。

「はい、ではお言葉に甘えまして」

変化は機械をかぶったツヨシに、すぐあらわれた。

「あゝ、何かとってもいい気持ちです。開放感とでも言うのでしょうか、これは」

普段はあまり喋らないツヨシが、だんだん饒舌になっていく。

「先輩がOBとして時々大学に来た時は、高慢ちきで嫌な先輩だと思っていたけど、突然電話をしてくきて、これを売ってくれと言った時には悪い冗談かと思いましたよ」

ツヨシは、まくしたてるように続けた。

「いや、ほんと。仲間内でもアカギ先輩の事は、親の七光りで科学デパートでいいポストに着いたって、もっぱらの噂でしたからね。で、それをカサにきて自慢話のオンパレード。ホントに嫌な奴ですよ。ね。先輩って」

自分の喋った内容に驚き、急いで弁解をするツヨシ。

「あ、あの、先輩。今は決して……！」

慌てふためくツヨシ。しかしアカギはニッコリ笑いながらこう言った。

「いや、いいんだ。実は明日のオープンで予約販売する わかって君 の中に不良品がある事が判明してね。それは肝心の自動調整装置がおかしくて、本当に本音をぶちまけてしまうらしいんだよ。だけど、どのコンテナに積みまれてきた商品が問題なのか、いまひとつ不明だったんだ」

みるみる青くなっていくツヨシを見下すように、アカギが続ける。

「で、工場に送り返している時間は無いんで、オレの事を良く思っていない、オマエみたいな連中を複数集めて実験したわけさ。おかげで問題のコンテナがわかったよ。あ、それ不良品だけど、よかつたら持って帰ってくれ」

アカギは携帯電話で商品部と連絡をとりながら歩き始めたが、振り返ってツヨシにいった。

「ああ、おまえ科学デパートにも就職の書類送ってたよな。オレ、人事の責任者とも仲がいいんだ。まあ、結果がどうなるかは、もうわかってるだろ。時間をムダ使いしないようにな」

アカギの言葉に、ツヨシの顔が真っ赤に染まっていく。

「ふざけやがって……、殺してやる！」

アカギに向かって突進する彼の頭の上に、もう「わかって君」は無かった。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7069n/>

人気商品「わかって君」を手に入れた男の思考

2011年10月6日16時12分発行